

研究課題名	ハイブリッド帝王切開術における全身麻酔の術後胎児への影響:後ろ向き観察研究
研究の意義・目的	<p>癒着胎盤症例の帝王切開術では出血量が多く時に胎盤剥離時に大量出血をきたします。そのため近年では癒着胎盤疑われる症例はハイブリッド手術室において帝王切開術が行われ、当院では全身麻酔後に透視下で両側の総腸骨動脈に一時塞栓用のバルーンを留置します。そうすることで大量出血時に一時的に子宮への血流を減少させることで出血量を減らすことが可能となります。しかし、全身麻酔導入から児娩出までの時間がかかることによって児へ全身麻酔薬の影響が増加し、また透視やカテテル留置の際の一過性の胎児への血流量減少が起こる可能性があります。</p> <p>そこで本研究では全身麻酔下で行われた非ハイブリッド帝王切開術とハイブリッド帝王切開術の胎児アウトカムを比較することでハイブリッド帝王切開時の全身麻酔の胎児への影響を調べ、どの暴露因子がどの胎児アウトカムへ影響を及ぼしているかを推定します。その結果、今後その暴露因子を改善することができれば今後の胎児アウトカムの改善につながる可能性をもたらします。</p>
研究を行う期間	機関の長の実施の許可日 ~ 2026年3月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2007年5月から2023年3月までに当院で全身麻酔で帝王切開術を受けた患者
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	<p>診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。</p> <p>診療情報：【年齢、性別、診断名、術式、併存疾患、妊娠週数、Apgarスコア、臍帯血血液ガス検査結果、麻酔導入から児娩出までの時間、麻酔薬投与量、推定麻酔薬血中濃度】</p>
試料・情報を利用する者の範囲	この研究は大阪公立大学医学部附属病院麻酔科のみで行います。
試料・情報の管理について責任を有する者の研究機関の名称	公立大学法人大阪、大阪公立大学医学部附属病院
本研究の利益相反	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	<p>大阪公立大学大学院医学研究科 麻酔科学 (担当者氏名) 日野 秀樹 電話番号：(06) 6645-2186 メールアドレス：HinoH@omu.ac.jp</p>